くすりのしおり

注射剤
2026 年 11 月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ガミファント点滴静注液 50mg

主成分：エマパルマブ（遺伝子組換え）（Emapalumab(genetical recombination)）
剤形：注射剤
シート記載など：



この薬の作用と効果について

炎症を引き起こすインターフェロン γ（IFNγ）に結合し、その活性を非競合的に中和することで、IFNγ依存性の炎症を抑制し、症状を改善します。
通常、全身型若年性特発性関節炎または成人発症スチル病に伴うマクロファージ活性化症候群の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。感染症または感染症の疑いがある、結核の既往歴または結核感染の疑いがある、B 型肝炎ウイルスキャリアである、または B 型肝炎ウイルス感染の既往歴がある。
・妊娠または授乳中
・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

・あなたの用法・用量は（（　　：医療担当者記入））
・通常、1～6 回目までは 3 日ごと、7 回目以降は週 2 回、1 時間以上かけて静脈内に点滴注射します。
・この薬を使用する前に、B 型肝炎ウイルス感染の有無を確認するため、血液検査が行われます。
・この薬を使用する前に、結核の有無を確認するため、医師の診察を受け、胸部 X 線検査、血液検査、ツベルクリン反応検査、場合によっては胸部 CT 検査などが行われます。必要に応じて、この薬の使用を開始する前に結核の薬を使用することがあります。
・一定期間使用したあとで、効果を見ながら使用期間を決めていきます。

生活上の注意

・感染症のリスクがあるため、感染症を疑う症状（発熱、体がだるいなど）があらわれた場合には、すぐに医師に連絡してください。
・この薬の使用中は、定期的に胸部 X 線検査などが行われます。結核を疑う症状（咳が続く、体重減少、発熱など）があらわれた場合には、すぐに医師に連絡してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発熱、かゆみを伴う皮疹、頭痛などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[　]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

・発熱、寒気、体がだるい［感染症］
・呼吸困難、意識の低下、まぶた・唇・舌のはれ［infusion reaction］

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法　その他

・この薬を使用している間は、生ワクチン［麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、麻疹・風疹混合（MR）、水痘（みずぼうそう）、おたふくかぜ、BCG など］の接種はできません。接種の必要がある場合には担当の医師に相談してください。また、この薬の使用と生ワクチン接種との間隔は十分にあけてください。

医療担当者記入欄　　年　　月　　日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。